

第2回 鶴岡公園環境整備懇談会

日 時 平成30年2月7日
午前9時から
会 場 鶴岡市役所大会議室東

次 第

1. 開 会

2. 会長挨拶

3. 協 議

1) 鶴岡公園正面広場整備基本計画について

2) 公園周辺道路整備基本計画について

3) 鶴岡公園整備基本計画の見直しについて

【アドバイザー：早稲田大学大学院 佐藤滋教授】

4. その他

5. 閉 会

鶴岡公園環境整備懇談会 委員名簿

《委員》

No.	職 名	氏 名	備 考
1	山形大学 名誉教授	野 堀 嘉 裕	会長
2	致道博物館 館長	酒 井 忠 久	副会長
3	馬場町会会長	齋 藤 善 二	副会長 欠席
4	鶴岡工業高等専門学校 名誉教授	小 谷 卓	
5	鶴岡商工会議所 観光部会長 株式会社荘内日報社 代表取締役社長	橋 本 政 之	
6	鶴岡市文化財保護審議会会長	植 松 芳 平	
7	鶴岡桜の会 会長 鶴岡観光協会 会長 荘内神社 宮司	石 原 純 一	
8	鶴岡青年会議所 副理事長	村 田 公 平	
9	鶴岡まちづく塾 鶴岡グループ	中 村 哲 也	
10	家中新町町内会長	加 賀 山 捷 三	欠席
11	本町三丁目・上肴町町内会長	戸 村 昌 也	
12	若葉町東部町内会長	上 野 康 成	欠席
13	本町三丁目北部町内会長	齋 藤 伸 吾	
14	樹木医	砂 山 隆 司	

《アドバイザー》

No.	職 名	氏 名	備 考
1	早稲田大学 研究院 教授	佐 藤 滋	

〈事務局〉

早稲田大学 都市・地域研究所	招聘研究員
鶴岡市	建設部長、都市計画課長、都市計画課主幹、都市計画課公園緑地主査、 都市計画課都市計画専門員、都市計画課公園緑地係専門員

第2回 鶴岡公園環境整備懇談会 会議席次

山形大学 名誉教授
野堀 嘉裕

会 長

早稲田大学研究院
教授 **佐藤 滋**

アドバイザー

致道博物館 館長

酒井 忠久

鶴岡工業高等専門学校
名誉教授

小谷 卓

鶴岡市文化財保護審議委員会
会長

植松 芳平

鶴岡青年会議所 副理事長

村田 公平

本町三丁目北部町内会長

斎藤 伸吾

鶴岡商工会議所 観光部会長
㈱荘内日報社 代表取締役社長

橋本 政之

鶴岡桜の会 会長
鶴岡観光協会 会長
荘内神社 宮司

石原 純一

鶴岡まちづくりグループ

中村 哲也

本町三丁目・上肴町町内会長

戸村 昌也

樹木医

砂山 隆司

事務局

傍聴席

鶴岡公園環境整備懇談会

第 2 回 資 料

1. 計画概要.....	1
2. 鶴岡公園・公園周辺道路ワークショップの概要報告.....	2
3. 鶴岡公園 正面広場基本計画案.....	3
4. 鶴岡公園 周辺道路基本計画案.....	12

1. 計画概要

1-1 計画概要

- 鶴岡市では、鶴岡公園の施設の老朽化や県道整備に伴う正面広場の改修等を契機として、今後の公園活用のあり方を検討するため鶴岡公園と周辺道路の基本計画の検討を進めている。
- 今年度検討を行う対象範囲及び検討のポイントを以下に整理する。



図 1-1 計画対象範囲

1-2 第1回 鶴岡公園環境整備懇談会の概要

- 平成 29 年 8 月 3 日に行われた第 1 回懇談会では、公園周辺を実際に委員で歩き、現状の公園の課題や今後の整備のあり方などについてグループ討議がされた。
- 懇談会では、公園全体についての樹木管理や快適性に関することや正面広場の整備方針についてなど、幅広い議論がなされた。以下に主な意見を整理する。



懇談会の様子

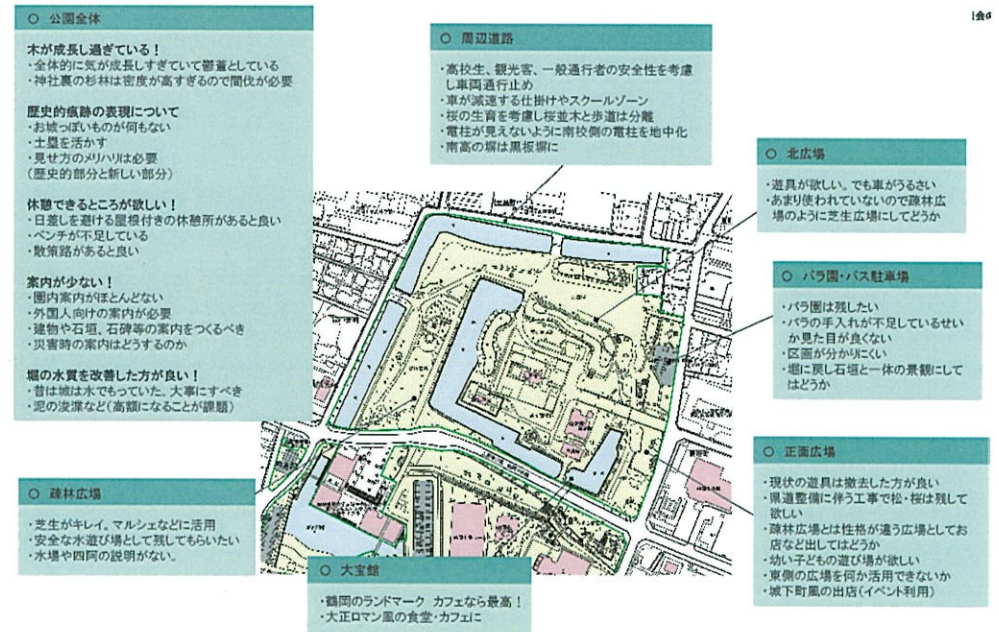


図 1-2 第 1 回懇談会で出された主な意見

2. 鶴岡公園・公園周辺道路ワークショップの概要報告

2-1 開催概要

日時:平成 29 年 10 月 28 日(土)14:00~17:00

会場:銀座 Dada まちづくりセンター

参加者数:12 名(青年会議所、町会代表者、商工会議所、高校生等)

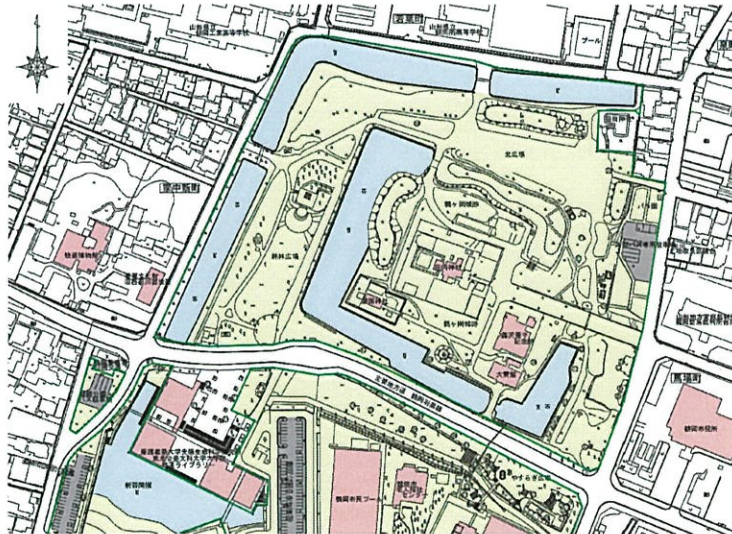


懇談会での意見をもとに正面広場、周辺道路についての計画案を複数検討し、まちづくりワークショップにおいて案を提示するとともに市民意見を収集した。
※パネル資料については別途資料参照

2-2 鶴岡公園について出された主な意見

1) 公園全体について

- お堀の活用をもっとしてはどうか。(水辺まで降りられる・釣りやカヌー・水質浄化)
- 案内が不足している(見どころ案・鶴ヶ岡城や藤沢修平について)
- 城跡の雰囲気を感じられない
- 若者・高校生が集える場所に(大宝館をカフェに!・飲食が買える場所・キャンプ・BBQ・プロジェクションマッピング)
- ベンチなど休憩できる場所が少ない
- 照明が欲しい(全体的に夜暗くて怖い・夜も遊べるように)



2) 正面広場について

車通りの多いところなので、疎林広場とは性格をわけてワイワイ・ガヤガヤした雰囲気の良いのでは?



通行人と見る・見られるの関係がつけるとよい

○ 正面広場にあると良いもの

- ・屋根や木陰はあるといい
- ・石積みなど歴史が分かるもの
- ・イベントステージ
- ・遊具は欲しい(大型遊具は不向き)
- ・堀側を向いて飲食できる場所
- ・花見・祭りの際の飲食スペース
- ・視線が通る低めの生垣
- ・音楽を流す・バンドなど

○ 心配なこと

- ・毎日使えるスペースなのか
- ・デッキは使用が限定され、人がいないと寂しい感じになる

C案模型

3) 公園周辺道路について出された主な意見

- ・舗装は城下町をイメージした石などが良い
- ・コーナー部を拡幅すると車のスピードが上がってしまうのではないか



- ・桜の老木は伐採した方がよい
- ・桜の根を傷めない工夫が必要



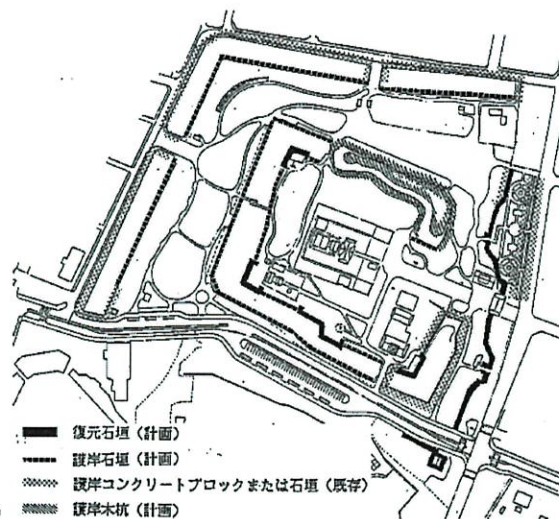
学校側は歩かない

- ・車止めは除雪の邪魔になる
- ・車止めがなければ歩道スペースに車が入ってしまい意味がない
- ・歩道境界を照明で照らす
- ・歩道との区別をする必要はない

3. 鶴岡公園 正面広場基本計画案

3-1 基本方針

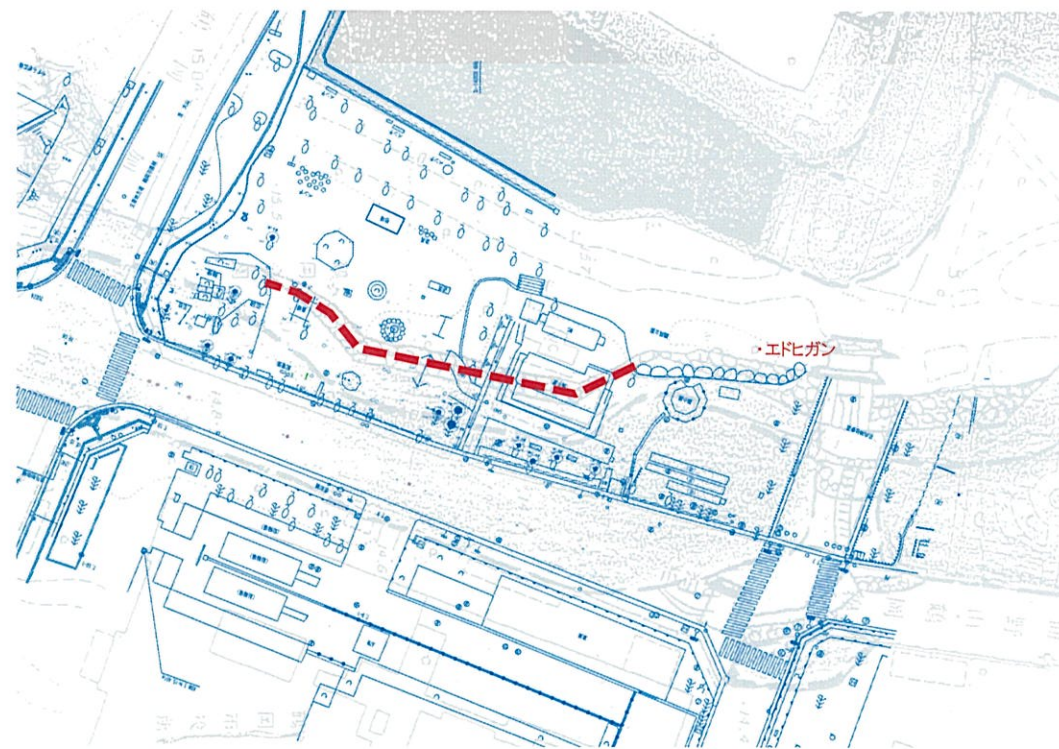
- 正面広場は、「鶴岡公園整備基本計画」において、「城址の雰囲気を保全し、また、ふさわしい雰囲気が醸成されるよう風格ある城址公園としての土地利用を図る」と位置付けられており、石垣を復元する計画が策定されている。
- 10月に行われた市民ワークショップにおいても石垣等の復元については、鶴ヶ岡城の痕跡を表現するものとして賛同する意見が多く見られ、
- しかし石垣の詳細な形式等については不明な部分が多く、ワークショップ後の学識経験者へのヒアリングや文献調査等により現状地盤面よりも一定程度高いことが想定された。
- そこで公園の施設計画の前提条件として、鶴ヶ岡城二ノ丸の当時状況を関係史料及び現地調査により把握し、想定される断面形状及び平面位置の検討を行う。



3-2 ニノ丸築造の歴史的経緯の調査

1) ニノ丸想定平面位置

- 鶴ヶ岡城が描かれた絵図と現状の重ね図を以下に示す。
- これによる現在エドヒガンがある丘の石積みは城があった当時から位置としてはほぼ変わっていないことが想定され、そこから突き出るような形状の堀が当時はあったものと想定される。
- この部分は明治期に堀を埋める際に掘削されたと考えられ、現在は城壁があった痕跡は地表面には残されていない。
- 当計画では、この突き出ている形状の箇所の痕跡の表現を基本として検討を進める。



2) 文献・資料による築造経緯の整理

参考文献・資料:「史料からみた鶴ヶ岡城」

「図録 庄内の歴史と文化」鶴岡市(H8.1)

「鶴ヶ岡城二ノ丸御隅櫓跡地発掘調査報告書」鶴岡市(H13.9)

「市内遺跡分布調査報告書」鶴岡市教育委員会(H12)

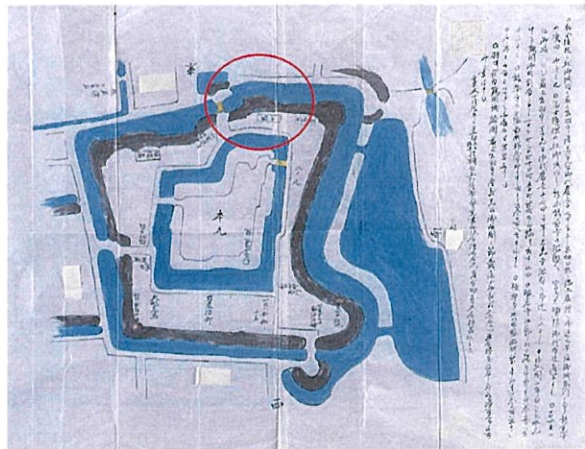
「鶴ヶ岡城図」石川淡暎筆(致道博物館蔵)

① 最上時代

- 最上氏時代の鶴ヶ岡城を描いた絵図によると、計画地付近の引っ張ったような形状が書き入れられている。
- ただし、「最上氏により二の丸が造成されたが、酒井氏時代のものとはかなり異なっていたようである」(p2・上段)とあるように、現状とは異なる状況だったと推定される。

出典:「史料からみた鶴ヶ岡城」

- この時代に石垣などがあつたかは不明だが、上記の記述により現状残されている石垣は酒井氏時代のものと推定される。



12

最上氏時代の鶴ヶ岡城絵図(41×45cm 鶴岡市郷土資料館蔵)

山形城主最上義光は、領内二十数か城のうち鶴ヶ岡城を直轄とし、拡張整備した。この絵図は、酒井氏入国後の寛文四年(一六六四)に、伝承をもとに作成されたものであるが、最上氏時代の鶴ヶ岡城を窺い知ることが出来る唯一の資料である。二の丸には、七軒の侍屋敷と兼治小屋・蟻塚小屋・鹿が立ち並び、土塁上には守り櫓が祀られている。なお、これは酒井氏時代の絵図に書かれたものであるが、二の丸は既にこの当時からあつたものと見られる。

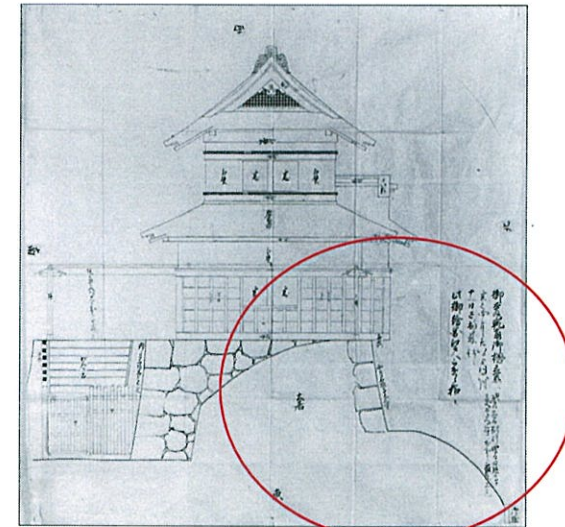
出典:「図録 庄内の歴史と文化」

② 酒井氏時代

- 1622(元和8) 酒井氏による居城の拡張工事に着手
- 1654(承応3) 二の丸御隅櫓完成
- 「二の丸の高さは本丸と同様に三の丸より9尺5寸(約285cm)高くなっている」(p5・上段)とあり、現状地盤面よりも一定程度高いことが推定される。

以上出典:「史料からみた鶴ヶ岡城」

- 1695(元禄8年)の本丸乾角櫓図では、土塁の上に石垣、その上に塀が築造されていることが分かる。
- 荘内神社の裏手に痕跡が残っているという記述があり、現状高さなどを現地調査により確認した(後述)。



18 鶴ヶ岡城本丸乾角櫓図(元禄8年 85×80cm 鶴岡市郷土資料館蔵)

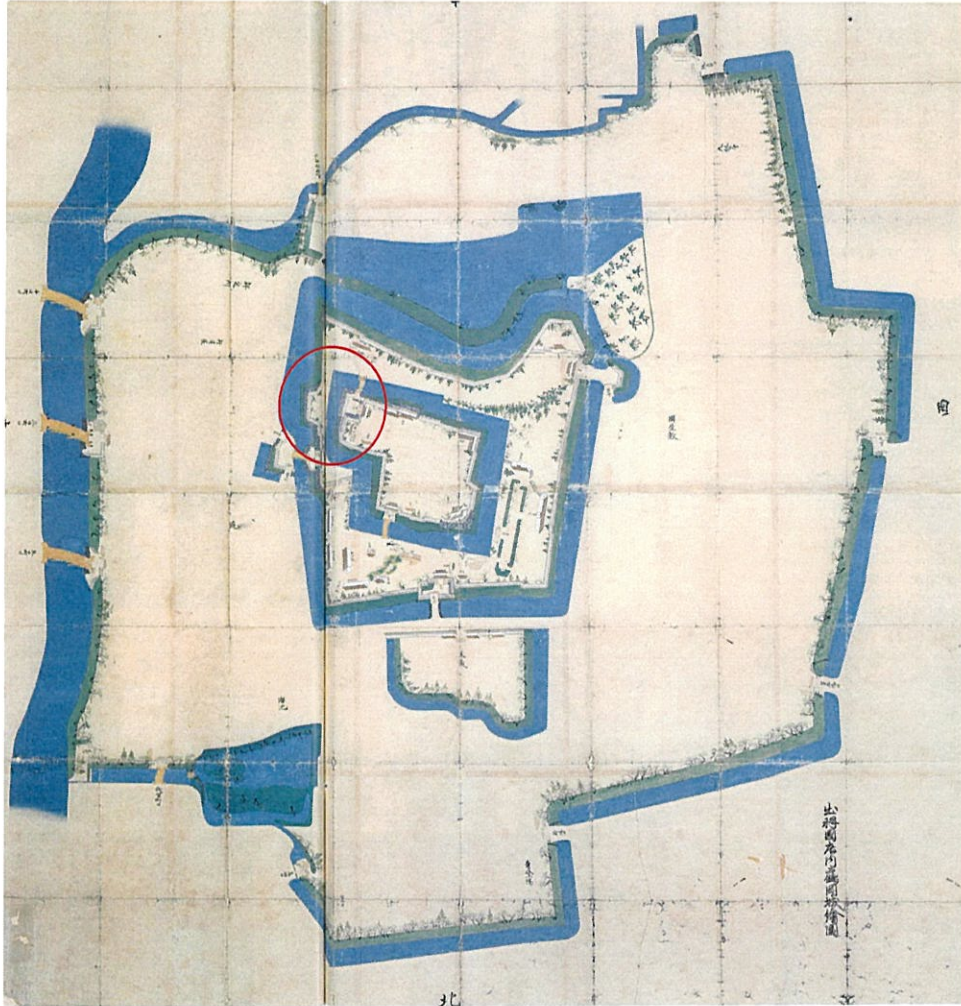
本丸の北西隅の土塁に繰え水堀にその影を写していた乾角櫓の設計図で、建築後40年たった元禄8年(1695)に改築したときのものである。土台は「鉢巻石垣」で、内側の登り口には雁木(石段)と欄木戸が設けられ、また扉に面したところが「石落し」がせり出しているという城郭特有の構造になっているのがわかる。荘内神社の裏手にはその跡が残っている。

出典:「図録 庄内の歴史と文化」

- 1770(明和 7 年)の鶴ヶ岡城絵図では、土塁、石垣、塀、樹木と思われるものが描かれている。これを見ると土塁は堀の内側全体にあり、大手門や隅櫓などに石垣が書き入れられている。
- 大手門から今回の整備範囲ぐらいいまでも同様に石垣と塀があることが書き入れられている。

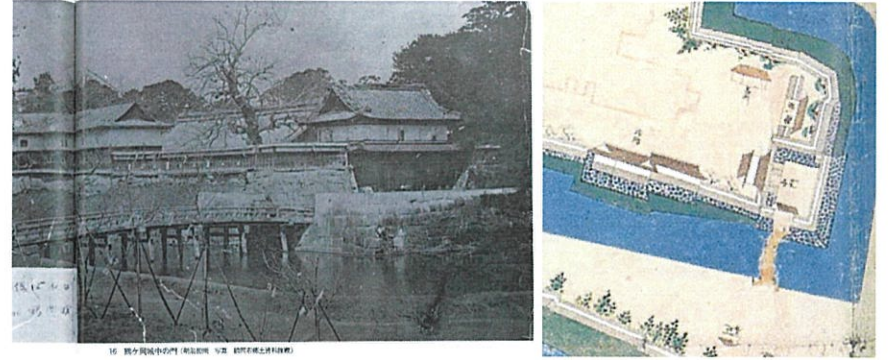
③ 明治以降

- 明治初期の中の門を撮影した写真奥には、土塁の上に石積み、塀が映っており、1770(明和 7 年)の鶴ヶ岡城絵図にも同様の表現がされている。



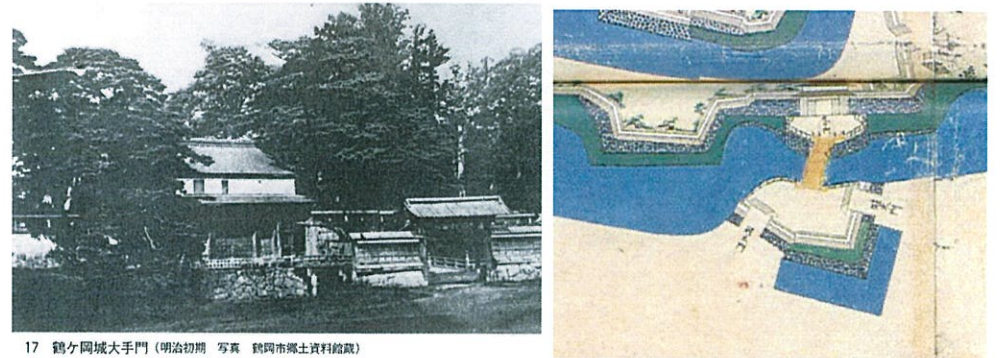
15 出羽国庄内鶴岡城絵図 (明和 7 年 190x147cm) 鶴岡市郷土資料館蔵

出典:「図録 庄内の歴史と文化」



16 鶴ヶ岡城中の門 (明治初期 写真 鶴岡市郷土資料館蔵)

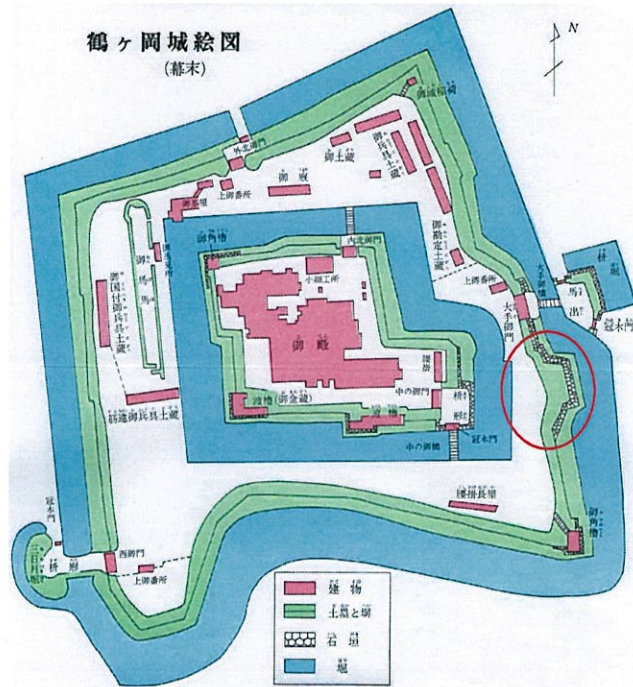
- 明治初期の大手門を撮影した写真と 1770(明和 7 年)の鶴ヶ岡城絵図を比較しても、馬出の手前の冠木門の位置や大手門の石垣などが正確に表現されている。
- このため、この絵図の表現は実際の建造状況を忠実に反映しているものと考えられる。



17 鶴ヶ岡城大手門 (明治初期 写真 鶴岡市郷土資料館蔵)

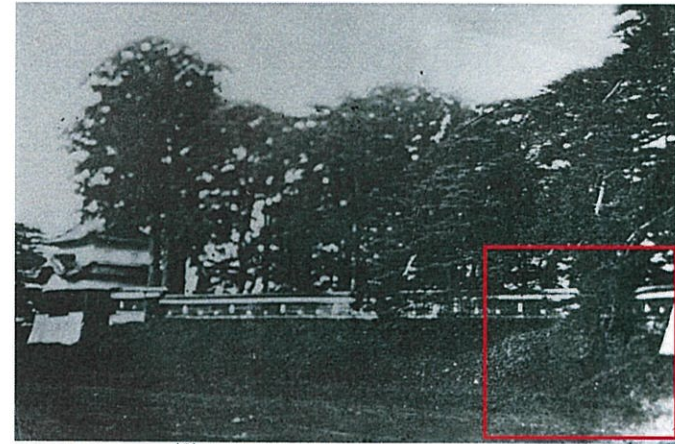
すべて出典:「図録 庄内の歴史と文化」

- 幕末の鶴ヶ岡城図を見ると、水際線、石垣、背面側の土塁と思われる線が描かれており、当該計画地付近においては一定の幅を持った高さで土塁が広がっていることが想定される。



出典:「史料からみた鶴ヶ岡城」

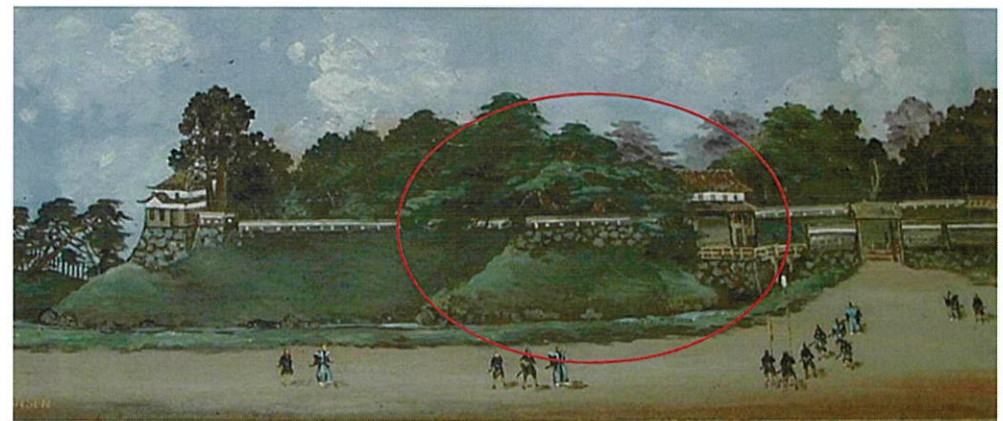
- 明治初期の御隅櫓付近の写真を見ると、非常に判別しづらいが右端わずかに堀の下に石垣と思われるものが映っている。



19 鶴ヶ岡城二の丸 翼角櫓 (明治初期 写真 鶴岡市郷土資料館蔵)

出典:「図録 庄内の歴史と文化」

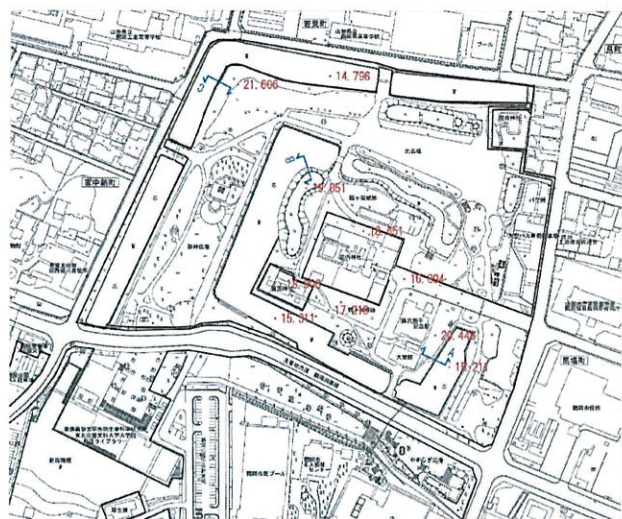
- 明治初期の鶴ヶ岡城を描いた絵画には、計画地付近には水面付近に土留めの石、その上に土塁、石積み(3段程度)、堀が描かれている。



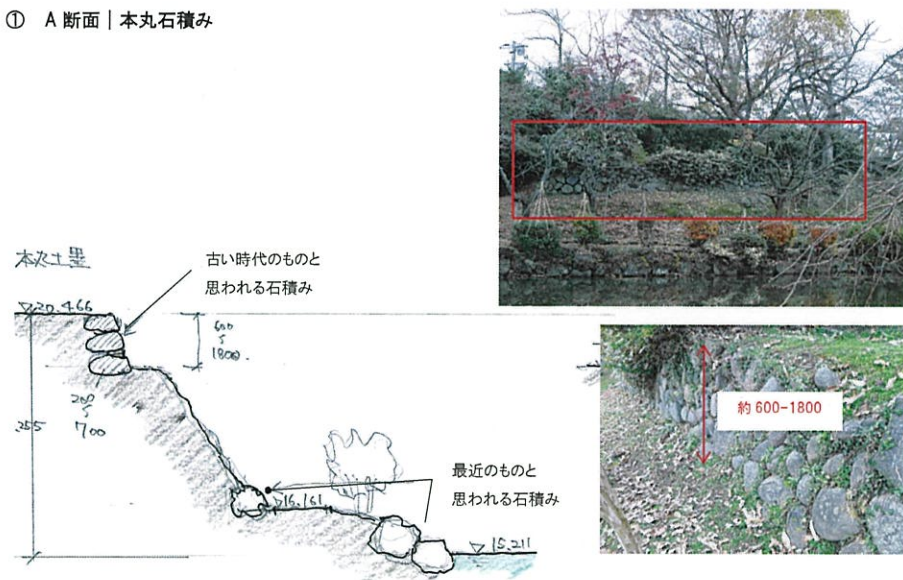
「鶴ヶ岡城図」石川淡蓮筆(致道博物館蔵)

3) 現地調査

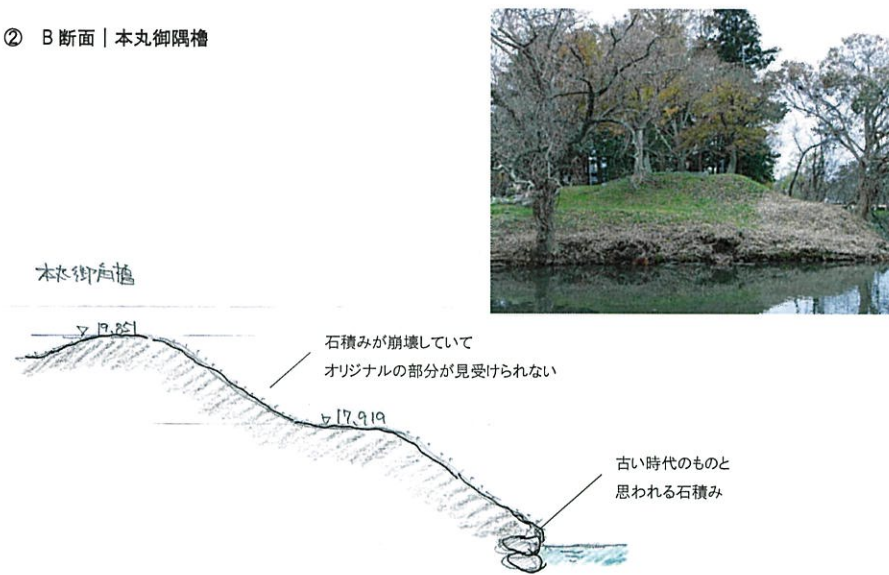
- 実測を行った断面箇所及びレベル調査結果を以下に整理する。



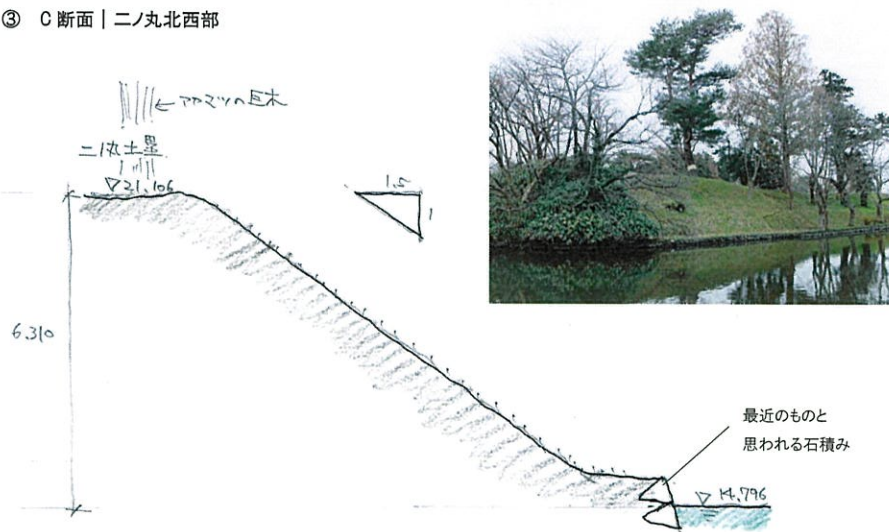
① A断面 | 本丸石積み



② B断面 | 本丸御隅櫓

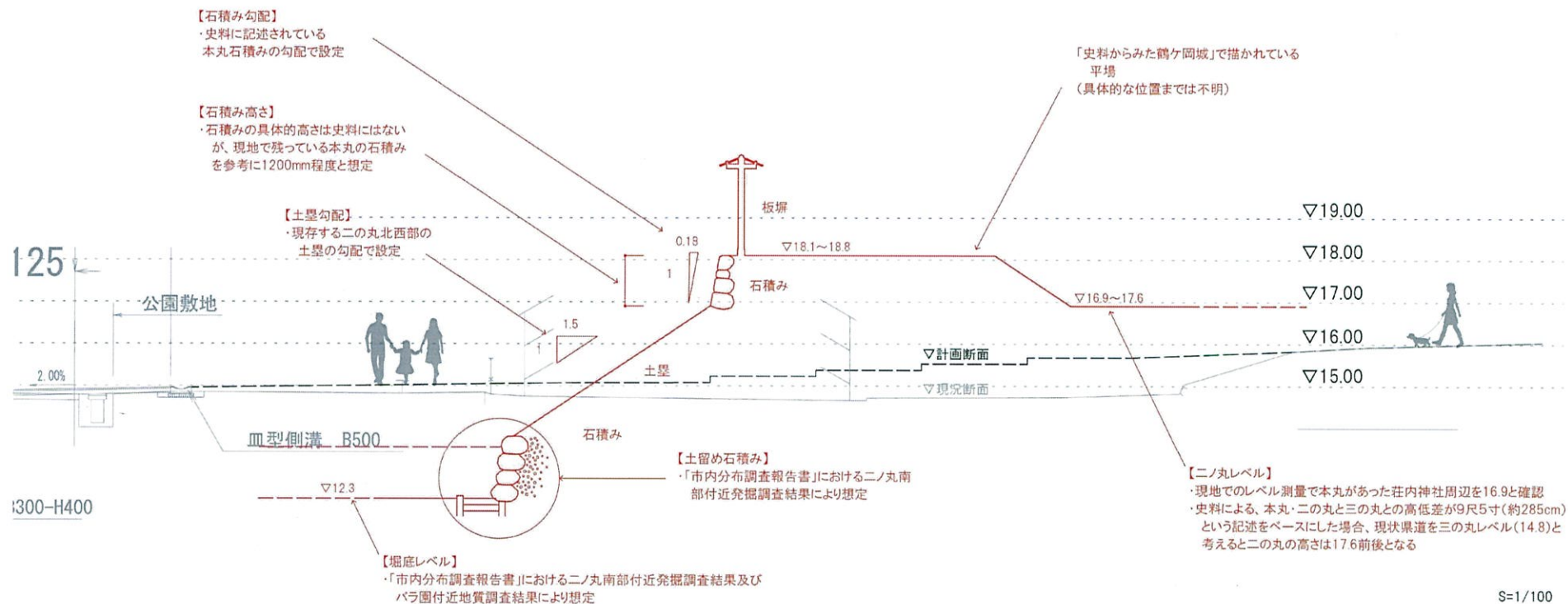


③ C断面 | ニノ丸北西部



4) 【想定】二ノ丸断面図

- 調査結果をもとに二ノ丸城壁の想定される断面形状を下図に整理する。
- これによると石積みの上端で 18.1～18.8 程度と想定され、現状地盤面よりも 3～4m高いことが明らかとなった。
- 物理的に石積み等を復元した場合、道路側と広場内の視線が通らず公園としての利用に支障が出るのが課題となる。
- そのため当計画では、石積みや土塁等の復元はせず、この規模等が分かるような歴史案内サインとして表現することとする。



3-3 基本方針

歴史的痕跡を感じ取れる表現

- 正面広場は、「鶴岡公園整備基本計画」において、「城址の雰囲気を保全し、また、ふさわしい雰囲気が醸成されるよう風格ある城址公園としての土地利用を図る」と位置付けられており、石垣を復元する計画が策定されている。
- 今回の調査において二ノ丸城の石垣は現状地盤面より3~4m高い位置にあったと想定されるため、物理的な復元はせず、歴史案内サインにより表現する。



鶴岡公園整備基本計画(S58.12)

日常的な「場」となる設え

- 気軽に使うことできる場や大宝館を望む休憩スペースなど多様な場づくりを行うことで、市民、観光客など誰もが気軽に利用できるような設えを目指していく。
- 夜間でも安心して利用できる照明デザインを計画する。



釜石大町広場(出典:オンサイト計画設計事務所)

多様な主体を巻き込んだ「場」づくり

- 子どもの遊び場やイベント利用など、多様な主体により活用される場となる計画を行う。



鶴岡公園でのイベント企画



やまがた子どもアトリエ

樹木の適正管理

- 現在の堀の周縁部や広場内のソメイヨシノは適正な管理を行い、樹木の適切な成長を促すよう計画する。
- 堀沿いの低木は成長しすぎて視線が通らないため、地被類等に統一し大宝館への眺望を確保する。



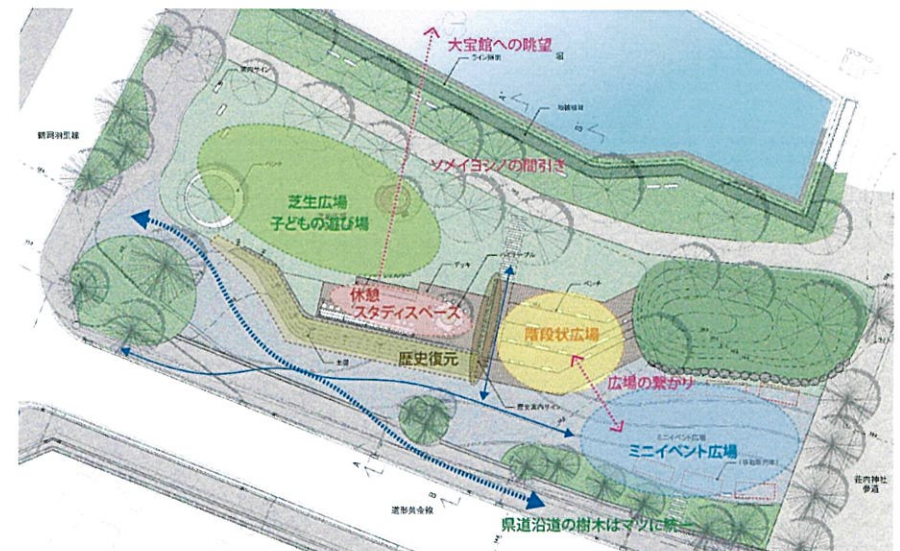
イベント等のニーズへの対応

- 日常的な利用だけでなく、休日などにはキッチンカー等によるミニイベントが開催しやすいようなスペースを確保するとともに、それに対応するための設備(給排水・電気)の設置を計画する。

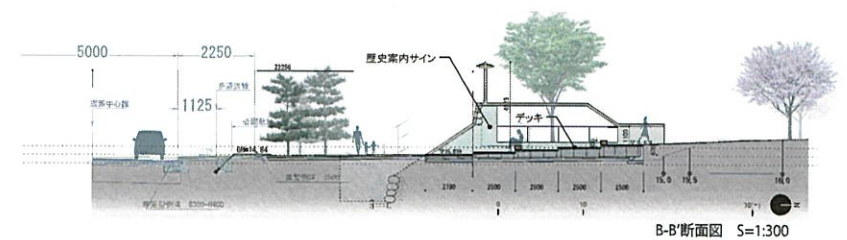
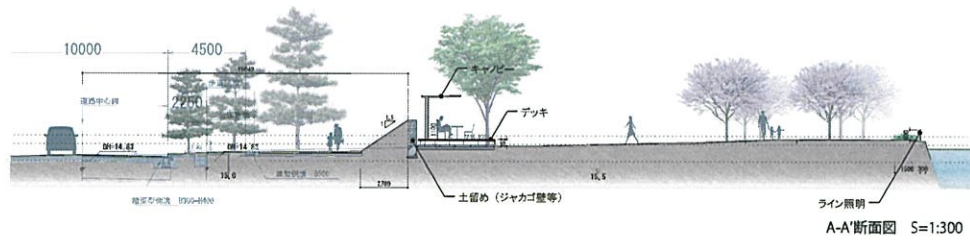
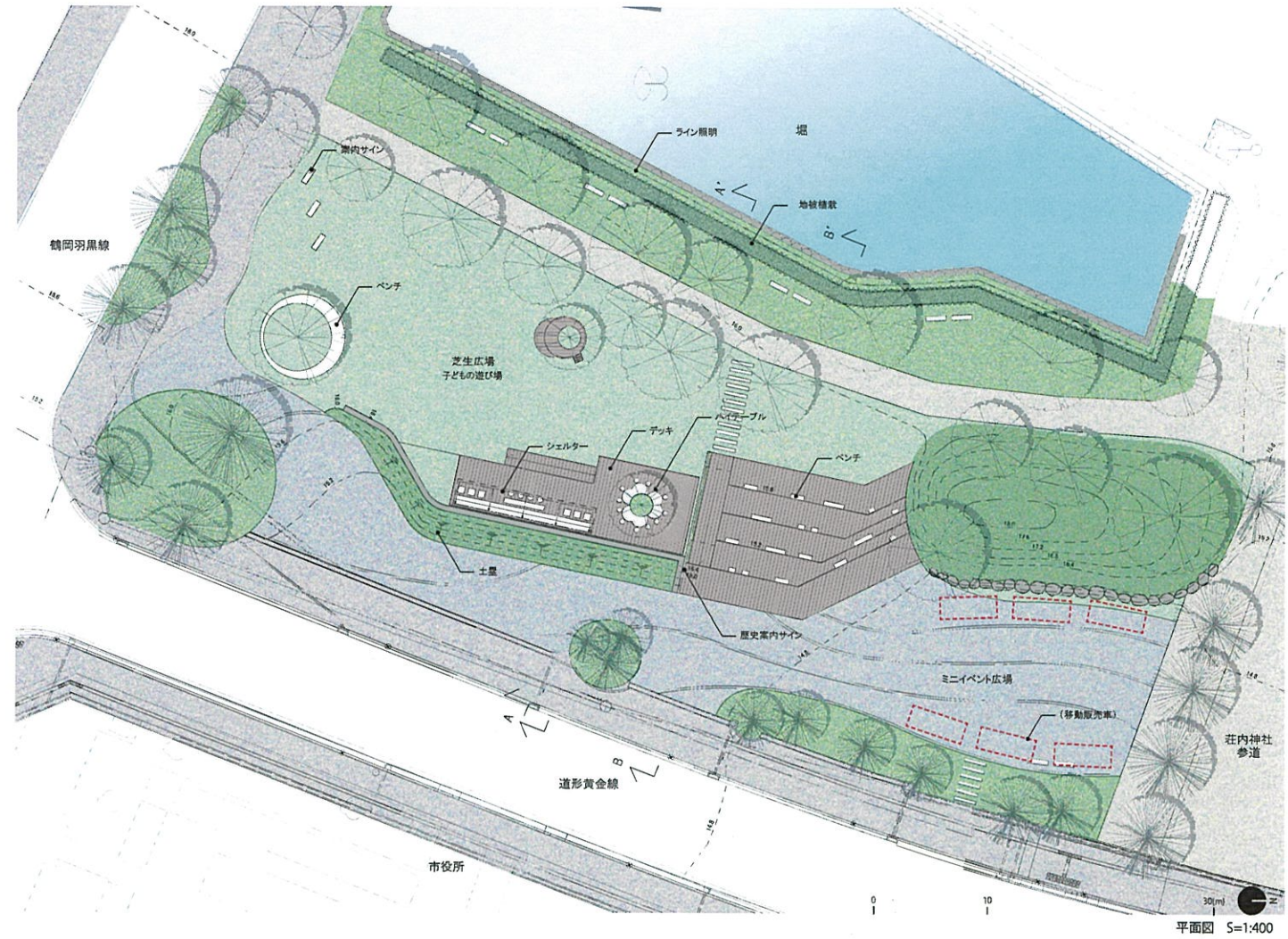


中野セントラルパーク

3-4 ゾーニングイメージ



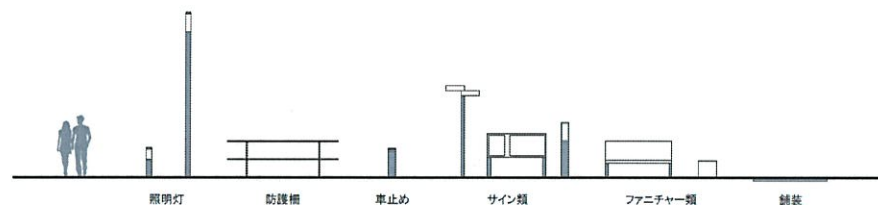
3-4. 基本イメージ



3-6 主要施設イメージ

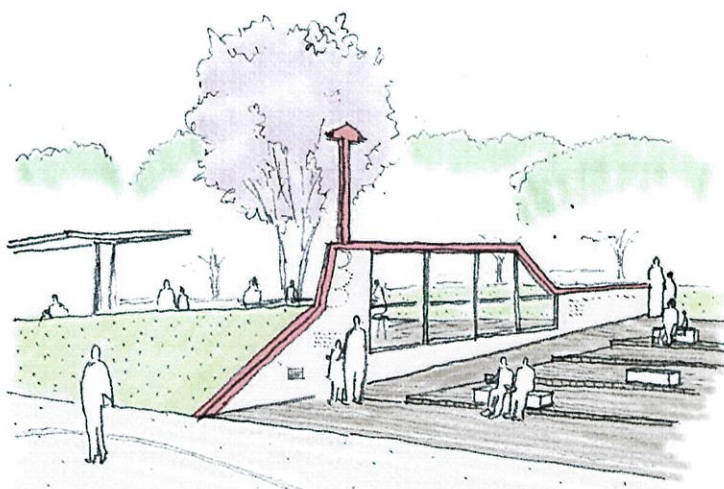
1) 共通施設イメージ

- 基本的には城址公園の歴史的風致の「地」となる施設計画とする
- 公園内の各ゾーンにおいて共通した素材、色彩、ディテールの施設を配置することにより統一された景観形成を行う
- 景観構成要素のデザインは、歴史的風致に配慮して極力自然素材を中心にシンプルで目立たないものを目指す



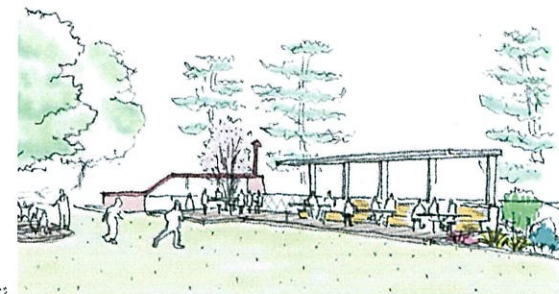
2) 歴史案内サイン

- 芝生広場とデッキの境界には二ノ丸の城壁の断面形状を現した歴史案内サインを設置する。
- 高さ等の規模は調査結果に基づきできる限り忠実に再現することで、現地で当時の城の規模を感じるとともに、盤面に各部位の説明等を加えることで歴史的な経緯等についての情報提供を行う。



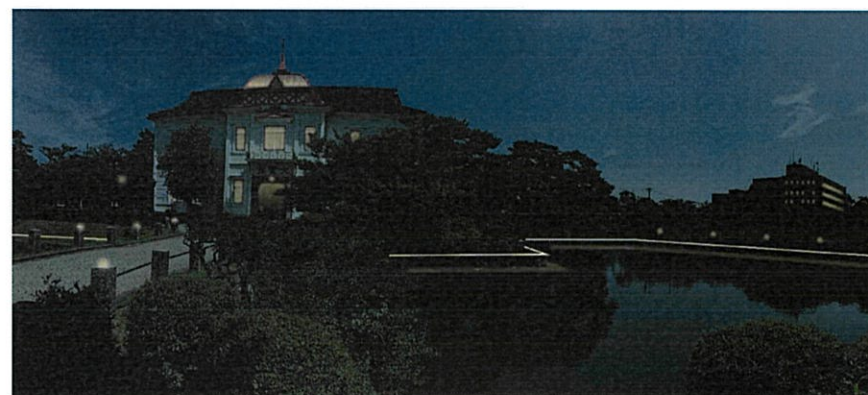
3) 休憩施設

- 広場内には、屋根付きベンチや木を囲うハイテーブル、デッキなど様々な形式の休憩施設(ベンチ・テーブル類)を設置し、1人でもゆったりできる、友人同士や親子連れなど数人でもくつろげるような環境づくりを行う。



4) 照明デザイン

- 広場内の照明については、最低限の明るさを確保することとどめるが、低い位置の照明など利用者が安心して使える照明計画につとめる。
- 堀沿いにはライン照明を設置し、夜間の堀への転落防止及び堀の形状が浮き上がるような照明計画とする。



5) 子どもの遊び場

計画の考え方

- ・ 城址公園としての歴史的風致との調和に配慮した環境計画とする。
- ・ 決まった遊び方だけをするのではなく、子どもの自由な発想により様々な遊び方が発見できる「場」を創造する。
- ・ 遊びを促す環境づくりとして、受け皿としてのハード的な設えについて基本的な検討を行いながら、市民参加プロセスの中で具体的な計画づくりを行う。
- ・ ワークショップや子どもイベント等、一時的・仮設的に使えるようなソフト的仕掛けも組み合わせた計画づくりを行う。

広場の受け皿としてのハード的設えの分類(正面広場において考え得るもの)

	一般的な公園遊具	アート・オブジェの遊び環境	地形的遊び環境	プレイパーク
概要・特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具メーカーにて製作された公園遊具製品 ・特定の遊び方を想定して計画されているものが多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具としてだけでなくパブリックアートとしての役割も果たす ・様々なイメージを喚起させるため、子どもたちの自由な遊びを誘発する ・城の要素である石や木などの素材を活用することも考えられる 	<ul style="list-style-type: none"> ・おおらかな地形を頼りに、走る、駆け上がる／降りるといった、比較的大きな動きの遊びを誘発しやすい ・正面広場を構成する堀や土塁などの歴史的景観とも馴染みやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・用意された遊具で遊ぶのではなく、子どもたちの想像力によって自分たちで遊びや遊び場を作り出していく ・プレイリーダーによるサポートにより遊び方やその発想方法を身に付けていく
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・城址公園としての歴史的風致に合わせた意匠・色彩となるよう工夫が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・正面広場におけるオブジェとしてのデザイン性と遊具としての遊び誘発性を両立する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・スペースを必要とする場合が多く、それほど大きなものは作ることができない 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレイリーダーなどの人材の育成と常駐が必要 ・遊びを作り出すための道具・資材の保管スペースが必要となる
参考事例・イメージ	 <p>綾南公園</p>  <p>平塚総合公園</p>	 <p>Yasteras Konst Museum</p>  <p>大分マリンパレス水族館</p>	 <p>明野保育園</p>  <p>豊橋保健センター</p>	 <p>羽根木プレイパーク</p>  <p>羽根木プレイパーク</p>

ソフト的仕掛け

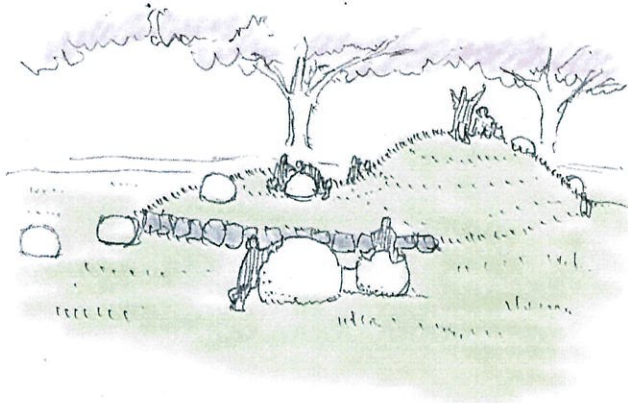
ワークショップ・(仮設的)イベント
<ul style="list-style-type: none"> ・実施者により提供されるプログラムに子供たちが参加し、テーマに沿った遊びを行う ・地域の任意団体や美術館・博物館のアートワークショップなどとのコラボレーションが可能
<ul style="list-style-type: none"> ・想定されるワークショップの内容により必要なスペース・設備が異なるため、ワークショップ実施予定者と事前に協議をし、整備内容を決定していく必要がある
  <p>やまがた子どもアトリエ</p>

+

● 遊び場デザイン例

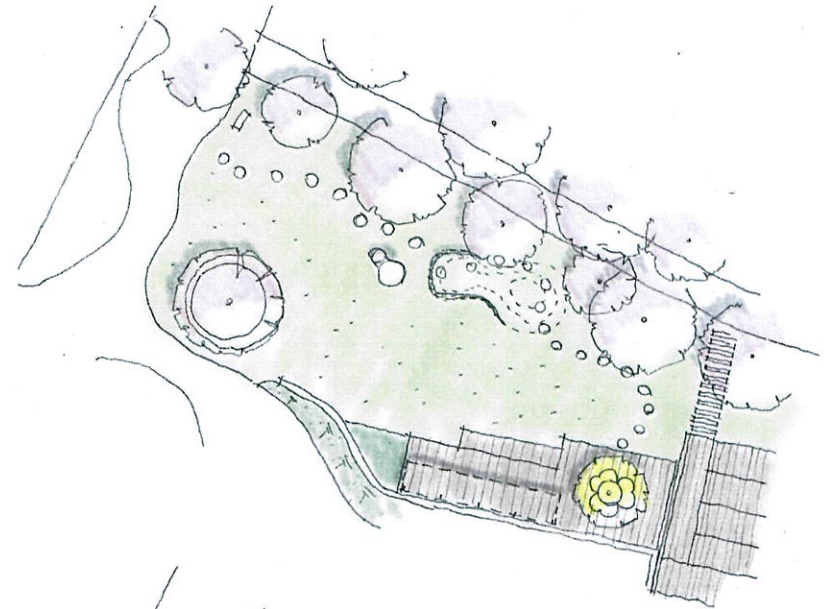
○ 地形的遊び場環境+オブジェ的要素

- ・築山と連続して配置するゴムボールにより場を構成
- ・築山には部分的に石積みの要素を採用することで、歴史的資源との調和を図る



○ アーティスト的要素

- ・ツリーサークルベンチから伸びる白い帯が波打ったり曲がったり屋根に変形することで
子どものいろいろな遊びを誘発する



4. 鶴岡公園 周辺道路基本計画案

4-1 現況課題の整理

- 幅員 7~8m弱程度の幅員で歩車道の境界がなく直線的な道路線形のため、自動車の通過速度が速い。
- 沿道に立地する高校に通学する学生と自動車の交錯が懸念され、特に朝の通学時間帯に歩行者・自転車の安全上課題がある。(ピーク時 約 500 台/h)
- 鶴岡工業高校付近のコーナー部の幅員が狭いため自動車が交錯している。
- 鶴岡公園側に歩道空間が確保されておらず、公園利用者の周回動線と自動車交通との共存に課題がある。

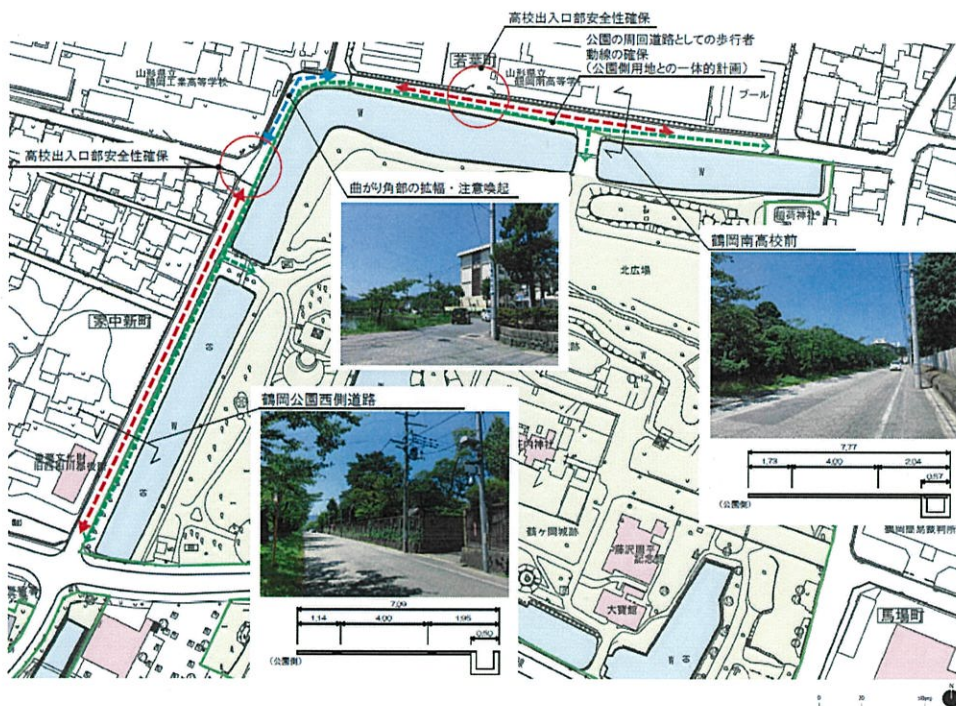


図 4-1 鶴岡公園周辺道路の現況と課題

4-2 基本方針

自動車の速度抑制を促す

- 自動車運転者に対して高校出入口やコーナー部における注意喚起を行う
- スクールゾーンや速度規制等のソフト的施策と組み合わせた実現を検討していく

歩行者の安全な交通空間を確保する

- 車止めを設置することにより歩行者だけが通行できるスペースを日常的に確保する

鶴岡公園の新しい利用を呼び起こすような場を設える

- 掘沿いにちょっとしたベンチやテラスを設置することで金峰山や堀などの歴史的資源へ視線を誘導し、現在は見られない掘沿いの活動を生み出す

鶴岡公園及び周辺の歴史的風致と調和する道路空間とする

- 道路空間は町並みの「地」となる要素であるため、周辺と調和するすっきりとした空間計画とする

【参考事例】



犬山市



出雲大社前参道
歩車道が一体となった整備事例

4-3 計画イメージ

1) 標準部

① 横断構成

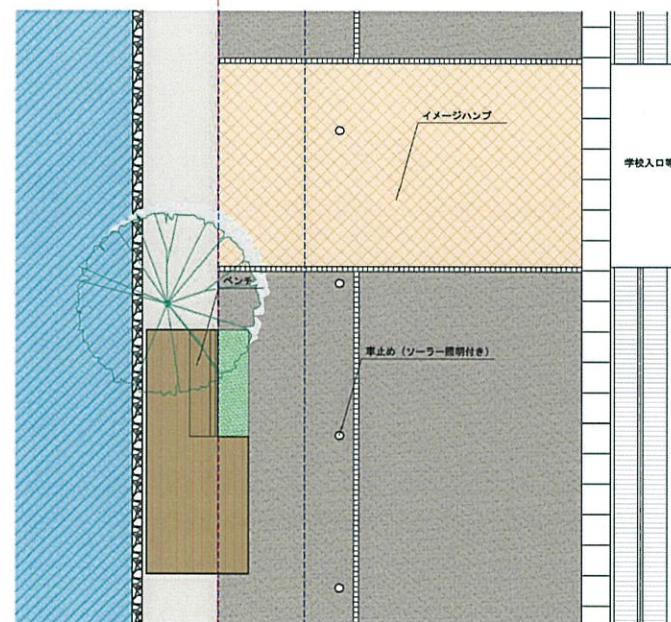
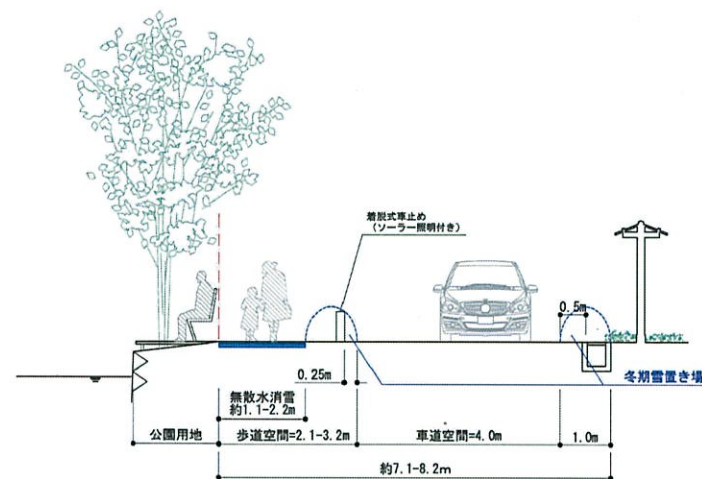
- 車道空間は、走行空間と路肩を約 5m 確保し、堀側に歩道空間を確保する。
- 歩道空間は堀側にできる限り広く確保することで、鶴岡公園の周回動線としても機能するようにする。
- 歩車道境界には車止めを設置することで歩道空間を確保する。
- 冬季の歩行環境確保のため、歩道空間には無散水消雪設備を設置し、車道の雪は両側に排雪する。
(除雪車による車止めの破損を防ぐため、冬季は車止めを外しておく)

② 道路空間の設え

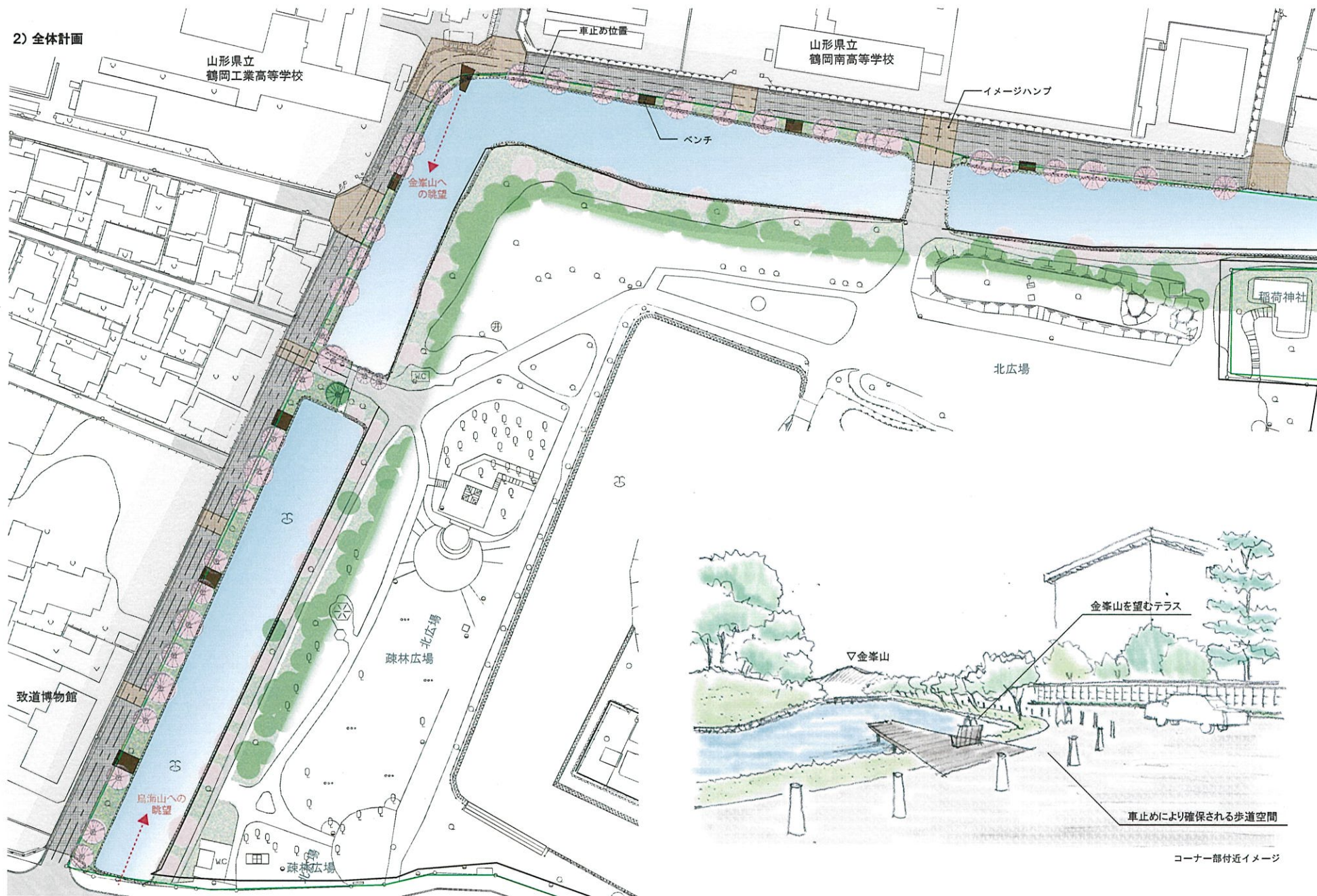
- 鶴岡公園や沿道の町並みが主役となる、「地」となるすっきりとした道路空間を実現する。
- 歩車道境界には段差をつけずフラットな仕上げし、かつ舗装も同材のものにする。
 > (歩車道境界にはピンコロ等でラインをつける)
- 鶴岡公園の堀沿いには、数か所ベンチ等を設置し堀を望んだり休憩したりできるような休憩スペースを設置する。



周辺道路標準イメージ



2) 全体計画



コーナー部付近イメージ

第2回 鶴岡公園環境整備懇談会

日時: 平成30年2月7日9:00~
場所: 鶴岡市役所大会議室東

鶴岡市

1. 鶴岡公園整備計画等の策定経過

1

昭和40年	鶴岡公園整備の基本計画策定
昭和58年12月20日	鶴岡公園整備基本計画の策定
平成3年6月26日	鶴岡公園環境整備懇談会の設立
平成7年3月	鶴岡公園整備基本計画の見直し
平成12年8月	鶴岡公園整備基本計画の見直し
平成24年3月14日	鶴岡公園整備基本計画に基づいた 北ブロック（歴史文化ゾーン）整備計画 の策定

整備計画項目

1. トイレの配置及びデザイン計画
2. 観賞池、バラ園の整備計画
3. 猿舎・禽舎・正面広場、子供遊具の整備計画
4. 誰もが利用しやすい園路等の整備計画
5. 濠の水質確保
6. 樹木の老木対応

1. トイレの配置・デザイン計画

城址公園にふさわしい景観に配慮したトイレの整備を行う。5箇所あるトイレを4カ所に統合し1箇所減らすものの、男女兼用から個別にするなど利便性の向上を図る。



実施状況と課題

※実施済み

- ①護国神社脇トイレ：撤去（廃止）
- ②鳥小屋脇トイレ：場所替え（廃止）→市民の森へ新築（H23年度）
- ③鶴工脇トイレ：改築（H23年度）
- ④稲荷神社脇トイレ：現状維持
- ⑤疎林広場脇トイレ：現状維持



市民の森トイレ



鶴工脇トイレ

【H24.3策定】北ブロック（歴史文化ゾーン）整備計画

4

2. 観賞池・バラ園の整備計画

大型バス及び車椅子利用者専用の駐車場を、土塁の復元を石積みにより表現、一部を芝生化するなどできる限り歴史的景観に配慮した整備を行う。



実施状況と課題

※実施済み（H24年度）

大型バス駐車場・車椅子利用者駐車場整備

新たな課題

- 1) 一般車の不当駐車が散見される状況となっている。
トイレなど短時間利用者の駐車場需要もあることから一般車駐車場の整備が必要。
- 2) バラ園の面積は縮小されたものの、引き続き十分な管理が行われていない。



大型バス・車椅子利用者駐車場に一般車が駐車している状況

【H24.3策定】北ブロック（歴史文化ゾーン）整備計画

5

3. 猿舎・禽舎・正面広場、子供遊具の整備について

猿舎、禽舎、遊具などの施設は全て撤去、土塁をイメージした広々とした花と緑のやすらぎ広場として整備を行う。



実施状況と課題

猿舎はH24年度、禽舎はH25年度に解体済み。

遊具は危険なものから順次撤去している。

正面広場整備基本計画の策定中



新たな課題

遊具は老朽化から順次撤去され、現在鶴岡公園には遊具などの幼児・子供向け施設が無くなっている。

【H24.3策定】北ブロック（歴史文化ゾーン）整備計画

6

4. 誰もが利用しやすい園路の整備について

①移動等円滑化園路の舗装整備について

歴史的景観に十分配慮を行った仕上げ材を選定し、移動等円滑化園路を整備する、合わせて休養施設や便益施設を整備する

②正面広場の舗装整備について(県道拡幅)

県道拡幅の際に道路の線形計画、公園内に歩道(園路)を設ける形で歩行者の安全確保を図る必要があることから既存の樹木(松)を活かした歩道(園路)整備を行う



実施状況と課題

①参道石張舗装整備 (H26年度)

園路アスファルト舗装整備 (H25年度)

②正面広場基本計画と合わせて計画策定 (平成29年度予定)



【H24.3策定】北ブロック（歴史文化ゾーン）整備計画

7

5. 濠の水質確保

城下町としてのおもむき等地域特性と地方都市的機能が調和した魅力ある定住環境の形成を目指し、景観構成要素として清涼な水面の確保を行う。

- ①青竜寺川からの取水量を増やす等の対応を可能な限り実施する。
- ②落ち葉などが濠底に蓄積しないよう、落ち葉回収に努める。
- ③さまざまな水質浄化方法を試行し、経済的かつ効率的な方法を模索する。



実施状況と課題

①環境用水としての必要流量の検証を行うため試験通水を実施中、得られたデータを検証・精査のうえ更なる流入水量の確保を図る。

②定期的に落ち葉回収等は行っているものの、堆積汚泥の抜本的な低減にはつながっていない。

③環境浄化剤(バクテリア菌類)を使用した水質浄化を実施中、今後も引き続き効果的な水質浄化方法を検証する。

課題

水温が上昇した際や9月以降堰からの流入水が無くなる時期には、水質が悪化し藻の発生や異臭を感じる場合がある



藻の発生状況 (H29. 10. 11)

【H24.3策定】北ブロック（歴史文化ゾーン）整備計画

8

6. 樹木の老木化対応計画

「桜名所百選」に選ばれた公園であることを踏まえ、堀端の桜並木は現状保存に努め、低木類を混植し緑豊かな雰囲気醸成する。

腐朽化が進んだ桜は、将来の樹木間距離等を見据え、適度な間隔で新たに植え替えを行う。



実施状況と課題

鶴岡公園には725本の桜が植栽されており、樹齢100年に達している桜も多く幹の内部の空洞化等倒木の危険が進んでいる。特に外堀周辺は老木が多く、樹間に若い桜を植えるなど世代交代を考えた植栽を行っている場所もあるが、適度な植樹間隔がとられておらず、樹木の生育に適していない状況にある。

課題

樹木の老朽診断や成木に成長した際の樹間距離を見据えた植え替えなど桜の更新計画を策定し、将来的な公園の修景を意識した整備を図る必要がある。



整備計画の新たな課題

9

第1回鶴岡公園環境整備懇談会（8月3日）
市民ワークショップ（10月28日）で出された主な意見

項目	主な内容
わかりやすい園内表示	<ul style="list-style-type: none"> ○公園内の案内表示がほとんどない ○外国人向けの案内が必要 ○公園のそれぞれの場所や建物・石碑の表示や歴史の説明 ○散策ルートの表示 ○駐車場の案内
賑わいの場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○親子連れで遊べる空間（遊具） ○小学生が集まって遊べる場所（以前の幼児遊園のような場所） ○安全に水遊びができる場所
城址として歴史の表現	<ul style="list-style-type: none"> ○御隅櫓や大手門などのお城だったことの証を再現 ○観光客目線での城址としての見どころの整備
安全で安心な公園利用のために	<ul style="list-style-type: none"> ○夜は真っ暗でこわい ○照明がほしい
民間活力による活性化	<ul style="list-style-type: none"> ○フード・ドリンク類を提供する場があるといい ○鶴岡のランドマークである大宝館がカフェなら最高 ○イベント企画（釣り・カヌー・スラックライン）

整備方針の見直し

10

現在の状況や新たな課題に対応し、市民・社会的ニーズに即した整備計画に見直すこととして以下の項目を大きな課題としてとらえている。

歴史的市街地を形成する公園整備

方針1: 正面広場の整備

城址公園のシンボルとして風格のある、市民や観光客がくつろぎ賑わう広場の整備

方針2: 公園周辺道路の整備

鶴岡公園の歴史的風致と調和した空間と通行者の安全に配慮した道路整備

将来を見据えた公園環境の保全

方針3: 樹木(桜)の更新計画

樹木の老朽診断や成木に成長した際の樹間距離を見据えた植え替えなど桜の更新計画の策定

方針4: 漆の水質確保

流入水量の確保、水を滞留させない水流発生器などの整備

快適で安心な賑わいのある公園施設の拡充

方針5: 案内表示の整備

だれでも安心して公園を訪れることができ、公園の情報をわかりやすく発信できる案内表示の整備

方針6: 子供が遊べるスペースの整備

親子連れや子供同士で賑わう、遊具や地形・自然を利用した遊び場の整備

方針7: 駐車場・公共交通との接続機能の拡充

現バラ園敷地を利用し、短時間利用者向け駐車場や公共交通との接続機能を拡充する施設整備

方針8: 照明灯の配置計画

犯罪を防止し、いつでも安心して安全な公園利用のために公園照明の配置計画の策定

方針9: 鶴ヶ岡城址の歴史的表現

公園の魅力増進と観光資源として、鶴ヶ岡城の歴史を最大限活用した景観整備に係る民間事業への協力

方針10: 民間活力による公園の活性化

民間活力によるイベント開催やカフェ・キッチンカーの出店など公園の活性化事業への協力

公園の魅力増進への協力



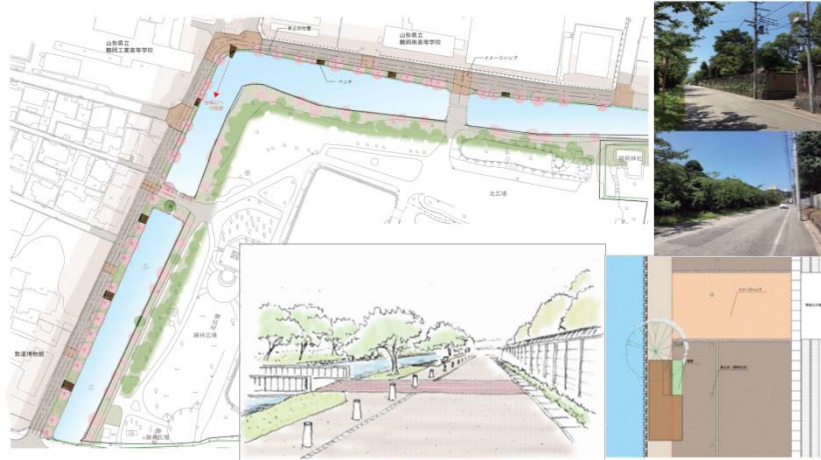
【方針1】 正面広場の整備

11



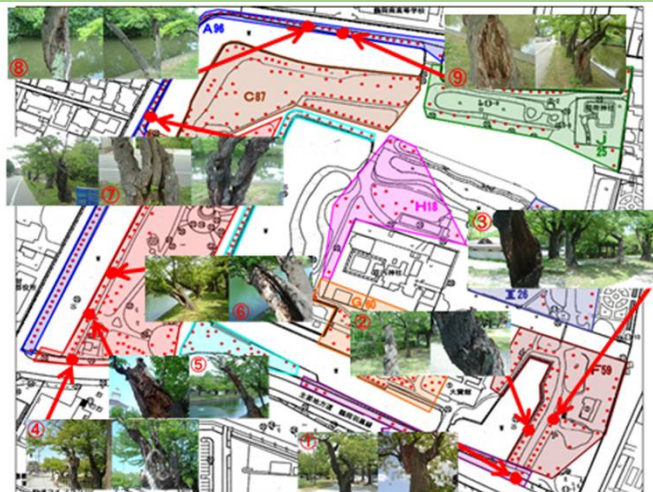
整備方針	整備内容	検討事項
城址公園のシンボルとして風格のある、市民や観光客がくつろぎ賑わう広場の整備	<ul style="list-style-type: none"> テラスデッキ ミニイベント広場 子供の遊び場、広場 土塁、石垣を表現したサイン 	<ul style="list-style-type: none"> 城址公園の歴史的風致に調和した子供の遊び場

【方針2】公園周辺道路の整備



整備方針	整備内容	検討事項
鶴岡公園の歴史的風致と調和した空間と通行者の安全に配慮した道路整備	<ul style="list-style-type: none"> ・車止め ・イメージハンブ ・休憩スペース 	

【方針3】樹木(桜)の更新計画



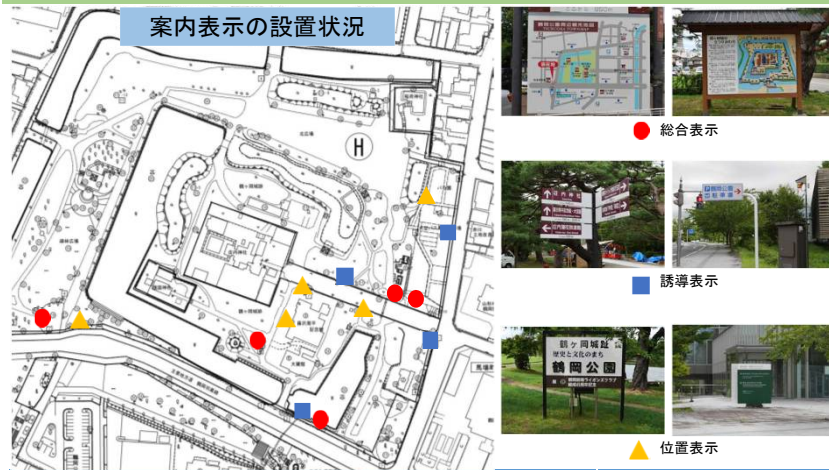
整備方針	整備内容	検討事項
主に老朽度の高い桜の更新計画を策定するものとし、樹木の老朽診断や成木に成長した際の樹間距離を見据えた植え替えなどの計画策定	<ul style="list-style-type: none"> ・桜更新計画の策定 	<ul style="list-style-type: none"> ・樹木位置（種類・品種）や老朽度の把握

【方針4】濠の水質確保



整備方針	整備内容	検討事項
濠への流入水量の確保、水を滞留させない装置等による濠の水質改善	<ul style="list-style-type: none"> 環境用水の水量確保 水流発生器の設置 	

【方針5】案内表示の整備



整備方針	整備内容	検討事項
だれでも安心して公園を訪れることができ、公園の情報をわかりやすく発信できる案内表示の整備	<ul style="list-style-type: none"> 案内、誘導、位置表示 公衆wi-fi整備 	景観に配慮したデザインや設置箇所、表示内容の検討

【方針6】子どもが遊べるスペースの整備



整備方針	整備内容	検討事項
親子連れや子供同士で賑わう公園のために歴史・場所性に応じた遊び環境の整備を行う	<ul style="list-style-type: none"> 城址公園の景観に合った遊び環境の整備 地形を生かした遊び場 	設置場所の検討 (疎林広場・正面広場)

【方針7】駐車場・公共交通との接続機能の拡充



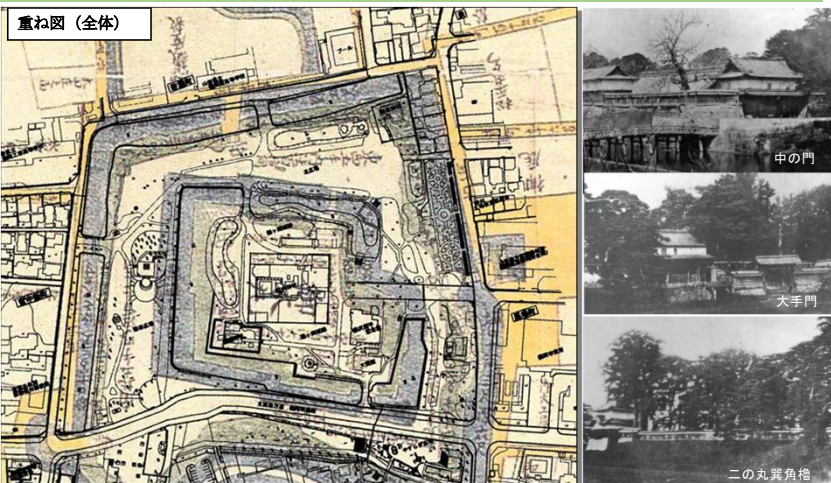
整備方針	整備内容	検討事項
現バラ園敷地を利用し、短時間利用者を対象とした駐車場の確保や公共交通との接続機能を拡充する施設整備	<ul style="list-style-type: none"> 一般車駐車場 路線バスの機能拡充 	<ul style="list-style-type: none"> バラの移設箇所 三本松、石垣の歴史的資源に配慮した景観形成

【方針8】照明灯の配置計画



整備方針	整備内容	検討事項
犯罪を防止し、いつでも安心して安全な公園利用のために公園照明の配置計画の策定	公園照明配置計画	<ul style="list-style-type: none"> 時間帯別公園利用状況の調査 現況照明灯の配置・照度把握

【方針9】鶴ヶ岡城の歴史的表現



整備方針	整備内容	検討事項
公園の魅力増進と観光資源として、鶴ヶ岡城の歴史を最大限活用した修景整備に係る民間事業への協力	歴史的建造物や遺構の表現	<ul style="list-style-type: none"> 整備内容、場所の検討 文化財関係団体との調整

【方針10】民間活力による公園の活性化



整備方針	整備内容	検討事項
民間活力によるイベント開催やカフェ・キッチンカーの出店など公園を利用した活性化事業への協力	—	<ul style="list-style-type: none"> 場所、内容の検討 必要な施設、設備の検討

整備方針の見直し

整備方針の提案と課題

方針項目	整備方針	整備内容	検討事項	
1	正面広場の整備	城址公園のシンボルとして風格のある、市民や観光客がくつろぎ賑わう広場の整備	<ul style="list-style-type: none"> テラス、ベンチ、ミニ「外」広場 子供の遊び場、広場 土壁、石垣を表現した景観 	<ul style="list-style-type: none"> 城址公園の歴史的風致に調和した子供の遊び場
2	公園周辺道路の整備	鶴岡公園の歴史的風致と調和した空間と通行者の安全に配慮した道路整備	<ul style="list-style-type: none"> 車止め、イメージハンブ 休憩スペース 	
3	樹木(桜)の更新計画	主に老朽度の高い桜の更新計画を策定するものとし、樹木の老朽診断や成木に成長した際の樹間距離を見届えた植え替えなどの計画策定	<ul style="list-style-type: none"> 桜更新計画の策定 	<ul style="list-style-type: none"> 樹木位置(種類・品種)や老朽度の把握
4	濠の水質確保	濠への流入水量の確保水を滞留させない装置等による濠の水質改善	<ul style="list-style-type: none"> 環境用水の水量確保 水流発生器の設置 	
5	案内表示の整備	だれでも安心して公園を訪れることができ、公園の情報をわかりやすく発信できる案内表示の整備	<ul style="list-style-type: none"> 案内、誘導、位置表示 公衆wi-fi整備 	<ul style="list-style-type: none"> 景観に配慮したデザインや設置箇所、表示内容の検討
6	子供が遊べるスペースの整備	親子連れや子供同士で賑わう公園のために歴史・場所性に合った遊び環境の整備を行う	<ul style="list-style-type: none"> 城址公園の景観に合った遊び環境の整備 地形を生かした遊び場 	<ul style="list-style-type: none"> 設置場所の検討(疎林広場・正面広場)
7	駐車場・公共交通との接続機能の拡充	現バラ園敷地を利用し、短時間利用者を対象とした駐車場の確保や公共交通との接続機能を拡充する施設整備	<ul style="list-style-type: none"> 一般車駐車場 路線/バスの機能拡充 	<ul style="list-style-type: none"> バラの移設箇所 三本松、石垣の歴史的資源に配慮した景観形成
8	照明灯の配置計画	犯罪を防止し、いつでも安心して安全な公園利用のために公園照明の配置計画の策定	公園照明配置計画	<ul style="list-style-type: none"> 時間帯別利用状況の調査 現況配置・照度把握
9	鶴ヶ岡城址の歴史的表現	公園の魅力増進と観光資源として、鶴ヶ岡城の歴史を最大限活用した修景整備に係る民間事業への協力	歴史的建造物や遺構の表現	<ul style="list-style-type: none"> 整備内容、場所の検討 文化財関係団体との調整
10	民間活力による公園の活性化	民間活力によるイベント開催やカフェ・キッチンカーの出店など公園を利用した活性化事業への協力	—	<ul style="list-style-type: none"> 場所、内容の検討 必要な施設、設備の検討